

令和5年度 第2回豊田市商業振興委員会

【日 時】 令和5年8月18日（金）午後2時から

【場 所】 豊田市役所南庁舎 南52会議室

【出席者】 <委員>

脇田 弘久〔愛知学院大学商学部 教授〕
松永 郁也〔豊田商工会議所 常議員〕
井口 貴視〔豊田信用金庫 中小企業診断士〕
新田 都子〔高岡地域消費者グループ 代表〕
山本奈津子〔藤岡商工会 女性部 部長〕
山内由美子〔とよた下町おかみさん会 令和4年度会長〕
杉山 裕貴〔市民公募〕

(計7名)

<事務局>

西脇 委千弘〔豊田市産業部部長〕
脇迫 博文〔豊田市産業部商工振興室長〕
酒井 一裕〔豊田市産業部商業観光課課長〕
柴田 優貴〔豊田市産業部商業観光課副課長〕
内川 哲雄〔豊田市産業部商業観光課担当長〕
棚野 翔〔豊田市産業部商業観光課主査〕
長谷川 拓海〔豊田市産業部商業観光課主事〕

【欠席者】 元岡 征志〔シー・プロジェクト 代表中小企業診断士/社会福祉士〕

【傍聴者】 2名

【次第】

- 1 開会
- 2 産業部長あいさつ
- 3 委員長あいさつ
- 4 本日の審議スケジュール等について
- 5 意見交換
- 6 議事
(1) 商店街活性化計画の変更について

7 その他

【会議録（要約）】

5 意見交換

①市内創業の促進には何が必要か

委員長

一口に創業支援といっても、創業に憧れているような潜在的な創業者から、様々な情報を集めて確実に創業への歩みを進めていく方まで色々なステージや段階がある。そのような各段階に合わせた支援の在り方や対象者の絞り込みを行うべきである。創業意欲はあるが、事業計画を思い描くことができずに相談窓口や金融に行くことに心理的なハードルを感じる方もいる。一方で、長年の経験を活かして創業される方もいる。きめ細やかな支援をするのは手間のかかることではあるが、相手に合わせた対応が必要である。

また、創業支援の取組みの1つとして、チャレンジショップがあるが、チャレンジショップに出店することも大変だという方もいる。そのような方向けに、気軽に数週間出店ができるようなポップアップショップを用意することも有効である。あるいはアプリ等の活用も含めて、民間でマッチングを行っている事業者との連携も含めて検討していくことも必要。

その他に、市民層における幅広い創業の土壌の形成という視点では、商業の枠を超えて営利だけでなく非営利の部分を含めたソーシャルビジネスの分野で担い手を促進していきながら、地域の社会的課題にも貢献する取組みが必要である。ビジネスの英知を使いながらソーシャルビジネスを行う発想をもった人材の育成という観点では、Z世代の若者にも興味を持っている層がいる。大人世代だけではなく、若い世代にも裾野を広げていきながら、全体像を見渡していく必要がある。

委員

自分の父親は一般的なサラリーマンをしていたが、自分自身は高校生の頃から自営業をやろうと考えていた。豊田市周辺では有名企業が多いためか、企業に就職してサラリーマンを目指す学生が多い印象がある。それを打開するためには、小中高のあたりから起業家教育を行い、子供たちに自営業の楽しさを教えていく必要があると考えている。

委員

元々動物病院で獣医をしており、豊田市の創業塾で経営や経理の勉強をして

訪問獣医を始めた方がいる。コロナを契機に外出を控える傾向も続くなかでそのような訪問サービスは市民にとって非常に便利である。訪問獣医を始められた方は成功事例であるが、資格や経験、技術がありながら、それを商売にできない人も多い。そういった方向けに、ビジネスモデルを伝えていく支援をお願いしたい。

委員

商工会議所に創業サポートセンターがあることで、会員でないと利用できないのではないかと考える人や、創業後に商工会議所の会員に勧誘をされるのではないかと心配する人が一定数いると思う。商工会議所以外の場所に創業サポートセンターや相談窓口を設ければ、相談者の心理的ハードルが下がるのではないかと。

委員

コロナ前からの創業相談件数をみると、創業機運が高まっていないというよりは、コロナを経験しても機運は維持しているという認識をしている。他の地域と比べて豊田市がどうであるかは認識していないので、その辺りが気になるころではある。

創業が活発な地域の特徴といえば、インキュベーション施設やコミュニケーションの場があることが挙げられるが、それが豊田市でも成功するのは別の問題になってくる。普段我々が支援する中で、金融機関は創業そのものについては専門ではないので、なるべく創業者の方の意見を直接聞いてもらうことを意識している。創業者にしかわからない苦労があると思うので、意見を聞く場をどう設置するのが重要である。

また、新設事業所率の高い中核市は、具体的にどのような取組みを行っているのか興味がある。補助金などのインセンティブの話があるが、たしかに創業時は資金調達に困る方が多いが、創業後は資金調達ではなく集客方法に悩む方が多い。継続的に、ビジネスマッチングや販促支援を行うことが、創業者を増やすうえで重要なのではないかと。

大学の授業で、普段は創業支援を行っているという話をすると、起業を考えているという学生が必ずいる。40名の授業であれば5、6人は起業したいという学生からの質問を受ける。少なくとも学生のなかで起業に対する関心はあると思うので、起業家教育はある程度創業の促進に寄与すると考えている。しかし、起業家教育を受けて起業をする学生に豊田市で事業を始めようには別の取組みが必要である。

委員

藤岡は南部と北部で雲泥の差がある。南部は新興住宅地で、今でもお店が増えている。一方で北部は昔と変わらない状況で、高齢化が問題となっている。お年寄りには車に乗れない方が多く、買い物に行けない状態。廃業していく商業者も多く、多くは建物を取り壊したり、自宅に改装する。創業者を増やすには、そのような廃業した方が使っていた建物を、新たに事業を始める方に貸し出してもらえようように市が斡旋をすると良いと思う。その他に、創業を目指す方のシェアハウスを作り、一定期間の家賃を免除する取組みも面白いと思う。

また、海外販売を開始したことで売上が増加した事業者もいる。海外への販路拡大に対する支援もあったら良いのではないかな。

委員

豊田市駅周辺のテナントに空きがあるが、テナント料が高いため、大手が入るという流れになってしまっている。中心市街地では、桜城址公園や停車場線でマルシェやキッチンカーで商売をしている方も多く、そういう人に創業塾などの支援を周知できれば創業者を増やすことができると思う。

②商店街団体が担うべき役割は何か

委員

以前は、豊田市にも商店街振興組合が十数団体あった。現在は、4、5団体に減少し、そのなかでも積極的に活動しているのは永覚新町と桜町のみである。中心市街地では、商業団体に加入することによって、駐車場が割安になるなどのメリットがあり、事業しなくても会員は集まってくる。一方で、郊外型の住宅地にある商店街では、団体が存在するだけでは会員が増えないのが現状である。商店街に入らなくてもその地域で商売ができるため、商店街に入るメリットがあまり見えてこない。チェーン店や大型店が地域に出店した場合、当該地域の商店街団体に協力するように市からも呼びかけを行うべき。

商店街の存在意義は、地域のコミュニティとして生活の中で住民の人達と関わっていくことであると考えている。また、安心安全な地域づくりのための街路灯整備なども商店街の役割の1つであると感じている。人口減少により個店も減少している状況の中で、地域住民の生活に必要な買い物環境の維持も商店街の役割であると考えている。移動販売車の運営なども考えながら、買い物難民がないようにしていくのも商店街の使命。

以前と比べ、個々の店舗の経営に余裕がなくなっており、地域の事を考えながら意見交換する機会も非常に少なくなっている。そのような状況のなか、改めて

リーダーの育成というのが非常に重要であると思っている。しかし、何もないと
ころからリーダーを育成することは非常に難しいので、取りまとめる団体や部
署が様々な情報交換やリーダー育成をしていく事も必要である。

委員長

商店街が地域コミュニティの中核となっていく中で、商業の枠を超えて、コミ
ュニティ全体を支えていくような機能を備えた存在となれるように検討してい
く必要がある。豊田市は非常に広域であるため、それぞれの商業・商店・商業団
体の在り方も様子が違っている。中心市街地や著名な観光地の近くに立地する
商店街団体には、商業機能が強く求められ、来街者の利便性を高めることや域外
との競争、潜在的な来街者の来街促進、SNS 等を活用した情報発信が必要。一
方で、住民の生活圏の近くに位置し、住民の方々のアクセスが容易な商店街団体
では、従来の商業機能に加えて、商業の需要以外の多様なサービスも取り込める
ような在り方を検討するべき部分があるのかもしれないと思う。人口減少で悩
まされているエリアでは、住民の買い物環境を維持するための対応に力を注ぐ
ような取組みを検討していく必要があるのではないかと思う。

委員

商店街団体が担う役割としては、商業活性が最優先であると思うが、部活動の
ような地域活動を促進して、商店街団体に所属している意義を増やすと良いと
思う。そのような活動からできた横の繋がりが地域の活性化に寄与する。

また、各商店街団体が起業相談窓口を設置することで、創業の促進と会員の増
加に繋がるのではないか。

委員

以前住んでいた地域は、商店街で必要なものが揃い、店主に困りごとを相談す
れば別のお店も紹介してくれた。そのような知恵を貸してくれたり、親身に相談
に乗ってくれるお店が商店街の中にあると嬉しい。

委員

そもそも商店街に加盟している方々自身が、商店街を必要としているのか疑
問である。商業振興委員会で様々な商店街の話を開くなかで、幹部とその他の会
員の温度差を感じる。幹部の方が団体の存続のために事業を実施していると感じ
るところがある。各地域で商店街団体が必要であるのかをしっかりと考えてい
くべきであると感じる。

委員

私が住んでいる地域には商店街がなく、買い物ができる場所がない。地域バスがあるが交通の便が悪く、そもそも高齢者はバス停まで行くことが大変。そのような地域では、移動販売があるとありがたい。

委員

私のお店のあたりには発展会があるが、活動はしていない。市からの発信で花壇を設置しているが、発展会から自発的な活動はしていない。発展会に対する息子の印象は、ただ1年に1回総会をやっているだけであまり面白みがないとのことであった。

委員

永覚新町商店街では、地域の安心安全のためにAEDや防犯カメラを設置している。しかし、メンテナンスや更新に莫大な費用がかかり、補助金も50%では厳しい。商店街団体が行う地域貢献活動には市からもバックアップをしてほしい。

委員

商店街団体が設置する防犯カメラやAEDは、商店街の活性化のため設置するものということで補助金があると思う。それらが商店街団体の負担になっているのであれば、市が設置することはできないのか。

事務局

現状は、補助金交付要綱に基づいて商店街団体が行う施設整備事業に対して補助を行っている。防犯灯などに対しては自治区を通して補助金の予算が付いている。商店街団体が行う防犯カメラやAEDの設置の補助については、必要があれば検討する余地はあると考えている。

6 議事

(1) 商店街活性化計画の変更について

・足助中央商店街

足助中央商店街から説明を受け、委員から意見を聴取した

委員

駐車場は料金を取っているのか。

足助中央商店街

1階が月極駐車場。2階は買い物客用で料金を取っている。
2階のみで2月、11月は40万、他は10万ほど。月極を加えると年間980万ほどの収入がある。

委員

事業の採算性について、事業費の下に「駐車場収入」とあるのはどういう意味か。

足助中央商店街

借入などを行わずに駐車場収入で事業費をまかなえるという意味。

委員長

修繕期間中の利用はどうか。

足助中央商店街

修繕期間中も2階の買い物客用の利用は可能。

委員

足助の町並み全体として駐車場は足りているか。

足助中央商店街

繁忙期は足りていないが、閑散期は十分に空きがある。増設は考えていない。

委員

工事期間は紅葉シーズンを避けるのか。

足助中央商店街

紅葉シーズンは避ける。工期は1か月程度なので、閑散期に行う予定。

審議

委員

商店街団体とはいえ、民間所有の駐車場に対しての補助金を交付するという
ことで、公共性をどう判断しているか。

事務局

商店街活性化計画の中で集客・誘客事業を計画しており、車で来て頂くことが前提の事業になるため、駐車場の整備は既存の事業との関連性があると判断している。